

## 実りの秋をひかえて

主任司祭 吉池 好高

天候不順の夏でしたが、お変わりなくお過ごしでしょうか。9月に入って、実りの秋を迎えようとしています。今年の農作物の出来が心配される昨今ですが、わたしたちの心の畑にも目を向けましょう。そのために、唐突に感じられるかもしれませんが、聖書を開いて、イザヤ書5章にある、ブドウ畑の歌を味わってみましょう。こんなふうになっています。

「わたしの愛する者は、肥沃な丘にぶどう畑を持っていた。よく耕して石を除き、よいぶどうを植えた。その真ん中に見張りの塔を建て、酒ぶねを掘り、良いぶどうが実るのを待った。しかし、実ったのは酸っぱいぶどうであった。・・・わたしがぶどう畑のためになすべきことで何か、しなかったことがまだあるというのか。わたしは、良いぶどうが実るのを待ったのに、なぜ酸っぱいぶどうが実ったのか。・・・」

預言者の目に映った、神のぶどう畑であるイスラエルの姿です。それは、イスラエルの主である神の期待に応えることなく、打ち捨てられようとしているぶどう畑を惜しむ嘆きの歌です。

「わたしのなすべきことがまだあるというのか」と言われた神は、最後にその愛する御子を遣わしてくださいませ。そしてその御子は、このように呼びかけられます。「わたしはまことのぶどうの木。わたしの父は農夫である。

「わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。・・・」(ヨハネ 15・1～)

わたしたちが自分の力で結ぶ、酸っぱいぶどうではなく、御父が求めておられる良いぶどうの実を結ぶことができるよう、わたしたちの幹である主にしっかりと結ばれていることができますように。刈入れのときは近づいています。冷夏のときに耐えて、豊かな実を結ぶことができるよう、主に結ばれていきましょう。そのために、わたしたちを招いている主の食卓に集わせていただきましょう。みことばと主が与えてくださるいのちの糧に養われて、豊かな実を結ぶことができますように。